

【世界のワイン史】 ※参考資料

年度（西暦）	地域	事柄
B C 6000	中東（西アジア）	コーカサス（ジョージア）起源説
B C 2500	メソポタミア	イラク（チグリス＝ユフラテス川）に文明の発祥
B C 2500	バビロニア（メソポタミア）	“ギルガメシュ叙事詩”に最古の記述
B C 2500～	エジプト	ピラミッド内部に葡萄栽培とアンフォラによるワイン造りの壁画
B C 2000～	ギリシャ	クレタ島のミノア文明。アンフォラ、プレス器の使用。ギリシャ神話の酒神ディオニソス、古代ローマにおけるバッカス崇拜
B C 1700	バビロン王朝	“ハムラビ経典”にワインの売買に関する規定
B C 1500～	西アジアとヨーロッパ	フェニキア人（ヨルダン）によるワイン造り。（西）ヘレス、（仏）マルセイユへ
B C 800	エトルリア	現在のトスカーナ周辺でワイン造りが始まる
B C 800	ローマ帝国	ギリシャ人によってシチリア、南イタリアに伝播
B C 100～	ヨーロッパ（ローマ帝国）	ローマ軍の遠征によりガリア（フランス）、ゲルマン（ドイツ） ヒスパニア（スペイン）伝播
～A D 400	ヨーロッパ（ローマ帝国）	フランス（ローヌ、ブルゴーニュ、ボルドー、シャンパーニュ） ドイツ（ライン）に伝播
92	ヨーロッパ（ローマ帝国）	ローマ皇帝ドミティアヌスによる属州での葡萄栽培禁止令
200～	ヨーロッパ（ローマ帝国）	ケルト人によりワイン貯蔵、運送容器として木樽の使用が始まる
280～	ヨーロッパ（ローマ帝国）	ローマ皇帝プロブスがガリアでの葡萄栽培奨励
400～	ヨーロッパ（ローマ帝国）	ローマ帝国崩壊
711～	スペイン	イスラム帝国（トルコ、ムーア人）は北アフリカ、イベリア半島へ進出
700 中～800 初期	ヨーロッパ	フランク王国カール大帝が神聖ローマ帝国の皇帝となる（800年）ワイン奨励し （独）ラインガウ、ブルゴーニュでワイン産業振興 ベネディクト派によるワイン振興
1112 頃～	フランス・ドイツ	シトー派によりブルゴーニュへ。ドイツラインガウのエーバーバハ修道院へ
～1600	ヨーロッパ	ヨーロッパ各地でワインの産業化が広がる
1500 頃～	ニューワールド	スペイン、ポルトガルによる新大陸発見によりワイン産地拡大 ペルーでワイン造り開始
1500～1600 年初期	ヨーロッパ	ガラス瓶とコルク栓の利用が始まり、シャンパーニュの発明
1600 初期	ハンガリー	トカイが造られハプスブルグ家により庇護
1600～	フランス・ドイツ	オランダ人により蒸留技術が広がる。コニャック、ブランデーがイギリスへ
1600 中～	（仏）ボルドー/スペイン	ボルドーが銘醸地となる。主はソーテルヌの貴腐ワイン
1668	シャンパーニュ	ドン・ペリニオンがオーヴィレール修道院の出納係となる
1800 前半	フランス	パストゥールによる酵母と微生物の研究
1850 頃	南アメリカ	チリ、アルゼンチンでワイン産業が発展
1855	フランス	パリ万国博覧会。ボルドーの格付が制定される。ボレオン三世時代
1870（明治 3 年）	日本	山梨でワイン造りが始まる
1860～1900	ヨーロッパ	ウドンコ病（1855年）、フィロキセラ害虫にとる被害が蔓延（1863年～） ベト病による被害（1878～1880年）
1900 前半	ヨーロッパ	ワイン法が徐々に整備される
1970～	アメリカ	高品質ワインの醸造。ナバ、ソノマに多数のワイナリー設立
1980～	ヨーロッパ	EU加盟国による原産地呼称制度が整備
1990～	オーストラリア	ワイン生産量、輸出拡大
2015～	日本	日本初のワイン法（2018年施行） 国税庁発令の10月30日果実酒等の製法品質表示基準（ワイン法）が制定